



やよい図書館



あけましておめでとうございます。今年もやよい図書館をよろしくお願い申し上げます。
 新しい年がスタートしました。寒いけれど新春というだけで春が近づいてきたような気持ちになりますね。やよい図書館でもおめでたい気分を盛り上げたい…ということで、1月5日の開館日から福袋ならぬ「にゃよいの福本」と題して3冊の本をパッケージして貸し出します。外見からは何の本が入っているかわかりません。開けてからの楽しみ！ 新たな出会いがあるかもしれません。限定30セット（大人15・子ども15）を予定しています。ご希望の方は早めにご来館ください。

俺の一冊・私の一冊

中央本町地域学習センター・やよい図書館で働くスタッフが、それぞれ自信を持っておすすめする1冊をご紹介します。みなさん、ぜひ読んでみてください！！

館長の一冊

『アンソロジー お弁当。』 PARCO出版



お弁当について、そうそうたる人たちが語ります。例えば高浜虚子、池波正太郎、宇野千代、向田邦子に沢村貞子。中坊公平、阿川佐和子、よしもとばなな…総勢41人。昔のお弁当にまつわる思い出やこだわりが、それぞれの時代を反映して読みごたえ十分。どんな時も、その家庭の愛情を感じるお弁当。かと思えば駅弁、空弁、ロケ弁、早弁。どれも本当においしいそう！ そして幸せな気持ちになります。明日はチン！ じゃないお弁当を作りましょうか。

俺の一冊（萩原）

『佐藤可士和の超整理術』 佐藤可士和／著 日経ビジネス人文庫



著者のことは知らなくても、彼のデザインしたものは誰でも目にしていると思います。ユニクロ・楽天・国立新美術館のロゴは著者がデザインしたもの。クリエイティブデザイナーの著者が何故、整理術？ と思いましたが、物事やアイデアを分類し、余分な物はそぎ落とし、本質を浮き上がらせ、形にする。このような著者のデザイン方法は、まさに整理整頓と同じであるとのこと。ビジネスシーンにはもちろん、生活のあらゆるシーンに使える整理術が満載です。

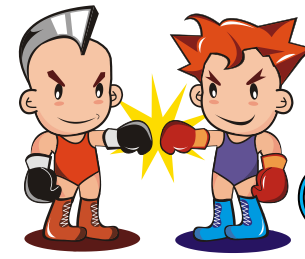
私の一冊（中澤）

『百寺巡礼』 五木寛之／著 講談社



以前テレビで見ていた「五木寛之の百寺巡礼」が本になり、第一巻が私の故郷の奈良でしたので、とても興味深く読んだ記憶があり、今回読みなおしてみました。日本最古の寺である飛鳥寺、聖徳太子と法隆寺、半跏思惟像の中宮寺、牡丹の長谷寺、石楠花の室生寺、鑑真和上の唐招提寺、東大寺の大仏と、私は小さい頃から何度も行ったお寺ばかりです。そこに見えている仏像や建立物、周りの自然とそれ以外の見えない肌で感じる「悠久」に想いを馳せてみるのはいかがでしょうか？ 歴史の勉強にもどうぞ！ 私もまた足を運びたくなりました。

読書の窓



ライバルが手を結ぶ (昨日の敵は今日の友?)



1月21日は長州の木戸孝充、薩摩の西郷隆盛が坂本竜馬の手助けにより、薩長同盟を組んだ日です。この日、400年にわたって続いた江戸幕府を倒すため、いがみあっていた二つの藩が手を結んだのです。

薩長同盟結成日を記念して、この日はライバルが手を結ぶ日になりました。そこで今回の読書の窓はライバルや敵同士が手を結ぶ話を選びました。主人公たちが敵と手を結んでまで成し遂げようとした目的とは・・・？ この点に注目しながらお読みください。

『13ヵ月と13週と13日と満月の夜』

アレックス・シアラー／著 求龍堂
 転校生のメレディスの正体が魔女だと知ったカーリーは、自分の体を魔女に奪われ、なんと魂だけが老人の体に閉じ込められてしまいます！ ライバルではないけれど、魔女から自分の体を取り戻すためにメレディスとカーリーが立ち向かうちょっと怖くてわくわくするお話です。

『げんだい時代小説 3大きな活字で読みやすい本 童門冬二集』

縄田 一男／監修 リブリオ出版
 「ライバルが手を結ぶ日」として記念されている薩長同盟結成日。この本に収録されている「元禄の薩長同盟」はその過程を切り取った短編小説です。時代小説は難しそうと食わず嫌いをしている方も、人情味溢れる短編から挑戦してみませんか。未知の面白さに気づくはず。

『悪魔と手を組め』

ジャック・ヒギンズ／作 早川書房
 金塊強盗事件を計画する2人組。彼らはその金を使って、ある組織に復讐しようとしています。組織の一員キーオーは2人に協力し、情報を組織に流し続けます。見事に金塊を奪った2人組ですが、運搬係の人間に裏切られ金塊は海へ沈んでしまいます。10年後、その金塊に注目が集まり、更なる争奪戦が始まります！

『太陽王の使者』

ジャン＝クリストフ・リュアン／著 早川書房
 カトリックを嫌う国。その国に入れば、カトリックは殺されてしまう。そんな中、太陽王ルイ14世はカイロ駐在大使にその国と同盟を結ぶ命令を出します。殺されずに国に忍び込み、王に気に入られ、同盟を結ぶためには・・・？ 敵と手を組むための作戦が描かれます。

『おわりから始まる物語』

リチャード・キッド／作 ポプラ社
 父親の失業で引っ越しすることになったジミー。引っ越し先では、錦鯉を飼っている少佐と仲良くなりますが、学校ではピリーという少年が何かと突っかかってきます。しかし、少佐の鯉の盗難事件に居合わせたジミーとピリーは、なんとかして泥棒たちから鯉を取り返そうと奮闘します。

☆読書の小窓☆

さんになきさくわのはつかい
 「三人吉三 廓 初買」 河竹黙阿弥／作
 題名の通り、三人の吉三（和尚吉三、お坊吉三、お嬢吉三）を主人公とした歌舞伎です。三人はみな強盗で、最初は百両をめぐる争うのですが、同じ名前と分かって義兄弟の契りを結びます。しかしこの時の百両をきっかけに三人の運命は二転三転、最後まで目が離せません。現在は、「三人吉三巴白波」という題名で上演されることも多いようです。